

## 書 評

### 「銀河写真選集」

高瀬文志郎, 小平桂一, 岡村定矩 編  
(東大出版会, 昭和59年6月刊, 9,800円)

本書は、銀河の形態学的研究から、測光解析による定量的研究までの文章記述を行っている第1部と、日本の望遠鏡で撮影され最新の研究に供せられた多くの銀河の写真を集めた第2部、それに写真部分のデータを集録した第3部とで構成されている。本自身は洋書的な装丁の英文の出版物であるが、緒言、目次等を含め第1部の終りまで、文章の部分については対応する日本語の文章が別冊になっている。日本人にとっては、勿論この10数ページの本文を日本語で読めることは有難い。特に、8章を7人の第一級の研究者が、必要最小限のスペースで解説した第1部の本文は、銀河に興味をもつ人、これから銀河の研究を志す人にとって、一気にエッセンスを吸い取ることでできる最適な入門書にもなっている。

この写真選集は、東京天文台の岡山 188 cm 反射望遠鏡による写真 21 枚と、木曾 105 cm シュミット望遠鏡

による写真 116 枚が掲載されている。木曾の写真のうちには、7枚の銀河団の写真も含まれている。本の題名が写真選集ということもあり、多様な形状の数多くの銀河の写真を見ていくだけでも、奥深い宇宙の構造への興味を呼び起こされる。勿論、4m・5m級の大望遠鏡の写真と比べると、個々の銀河の写真の鮮明さとか迫力では一步譲るが、これだけの数の銀河について定量的な解析が系統的に行われてきており、更にその研究が進展しつつあるという点が強みであろう。

銀河の様ざまな形や構造が、その形成と進化とどのように関連しているのかという問題はまだまだあまりわかっていない。多分我々は、まだそのような基本的な問題の解明へのスタートのあたりに居るのであろう。そして、さしあたり銀河を如何に定量化された特性量で表わすのか、という点で編者達の研究は1つの糸口をつかんでいる。その意味で編者達の最新の研究のアプローチを、解説を読みながら写真を見ていくと、解析の手法をある程度理解できたり、その主張に納得したり、又、色々新たな疑問を感じたりする、ということになるのではなかろうか。

(原久俊憲)

## 天 体 観 測 雑 誌

# 天文ガイド

11月号 定価420円<sup>〒80</sup> 10月5日発売

私のニュージーランド星の旅

ビクセン10cmフローライト屈折

35cm ドブソニアン完成!

新潟県・胎内平での星を見る会

11月の観測ガイド 9日の半影月食と「しし座流星群」

11月の星空/同好会誌紹介/マイコン教室/トピックス

コンステレーション・高見沢さん紹介  
今回の発見にまつわる話/望遠鏡の話/星を見る生活の話

### 切りぬく本

## 万能星座早見 '84'85年版

●企画・構成 藤井旭 定価690円

### 藤井旭のカラー版シリーズ

天体写真教室	定価1800円
天体望遠鏡ABC教室	定価1800円
四季の星座教室	定価1800円
月面観測教室	定価1950円
星雲星団観測教室	定価1950円
宇宙学入門教室	定価2300円

## 野外星図2000 2000年分点

●中野主一・太田原明著 定価880円

**誠文堂新光社**

〒101 東京都千代田区神田錦町1-5  
電話03(292)1221 振替東京 7-6294